

ずし楽習塾 だより

2010. 4

NO. 11

NPO法人ずし楽習塾推進の会
電話・Fax 046-871-7007

学びあい 教えあい ふれあい

生涯学習活動推進団体

「フランス語入門」講座からサークルが発足

平成21年度新たに開講した「フランス語入門」のサブ講座名は「楽しいフランス語を始めてみませんか？」です。

I型講座（市民講師企画講座）は市民が何かを初めて学びたい時に、その「きっかけ」を掴んでもらう「入門編」がたくさん用意されています。

「入門編」を卒業しますと、学んだことをさらにレベルアップしようと受講同期が自主的に集まってサークルを立ち上げるケースが良くあります。

「フランス語入門」でもサークルが発足しました。講師の中西さん、サークルで学習を継続している渡会さんに寄稿していただきました。

中西 真代さん（市民講師）

ずし楽習塾でフランス語の講座を開かせていただきました。初心者向けはずいぶんと久しぶりののと、受講者の年齢の差が約50歳あったのとで、当初はどうなることかと心配しました。幸い約1時間45分の間殆ど休憩無しで皆さんが熱心に取組まれ、こちらの手ごたえもあり嬉しく思います。

もし皆さんが私の教え方を評価して下さったのなら、それは私が学んだパリ大学第Ⅲの外国におけるフランス語教師を養成する学院の先生方が、当時この分野の第一線で活躍中の超一流の方々に、各自持てる知識・技術を惜しみなく伝授して下さったからで、今改めて当時に思いを馳せ、感謝しています。

フランスに住んで勉強するのではなく、全ての条件が異なるといっても過言ではない日本でフ

ランス語を学ぶ皆さんに、その全てを活用するのはかなり難しいですが、それでも完全に固定化してしまっている「仏語は難しい」の概念を、少しでも切り崩すことができ、発音にしろ文法にしろ、もっと取り付きやすくもっと親しみやすいのが、この綺麗なフランス語だと皆さんが気付いて下さり、ひいてはフランス文化に、より広くより深い興味を抱ける糸口になればと、夢んでいます。

渡会 実知子さん（講座受講者）

フランス菓子を作りたい、フランスに旅行に行く予定がある、フランス語で書かれた本を読みたい、ワインが好き、フランス映画を観たい、シャンソンの歌詞を知りたい、フランスに行って絵を描く、……。フランス語を学びたいとずし楽習塾に集まってきた人たちの瞳は、ランドセルを背負って桜並木をくぐった時と同じように、これから始まることへの探究心に満ち、キラキラと輝いていました。

授業は、日本の学校での授業の進め方と異なり、フランスで、外国人にフランス語を教えるための教授法を用いて行われました。また、受講生たちの興味のあることを取り入れつつ、言葉の持つ文化的・歴史的背景などを丁寧に説明していただきました。一人ひとりの発音を分かりやすく直して下さり、反復練習をすることにより、その場で基本となるフレーズを、頭でなく、身体で覚えることが出来ました。

短い期間でしたが、ずし楽習塾に参加したことによって、各自が興味のある分野の扉を開ける「未来への鍵」を、一人ひとりが手にしっかり握り締めたことは確かです。



「ご存知ですか？録音ボランティア」

平成20年度と21年度の2年間、市民グループ等企画講座（Ⅱ型講座）を開いた「録音ボランティアグループやまばとの会」にその成果や受講後の感想をお聞きしました。

「録音ボランティア」の理解が拡がりました。 やまばとの会 前会長 菅原 知佐子さん

ずし楽習塾推進の会の支援により私達「録音ボランティアグループやまばとの会」にとって大きな成果を得ることができました。

成果の一つは、録音ボランティアの仲間が増えたことです。2年間で講座を受講した方の中から30名の方が「やまばとの会」に入会し会員数は70名を超えたことです。

以前から「やまばとの会」の新人研修は2年に1回おこなってきました。毎回、10名程の入会ですので、3倍の効果があつたこととなります。

講座の内容はあまり変わりませんが、定員30名の講座に20年度は60名、21年度は50名の方が応募されました。「録音ボランティア」という必ずしも認識度が低い内容にもかかわらず多くの方の関心を集めたのは、「広報ずし」で募集できたりアクセスの良い市民交流センターで開催できたのが良かったと思われまふ。また、ボランティア活動をやってみたいと思つている方が意外と多いことも分かりました。

「やまばとの会」ではテープやデジター（視覚障害者専用の圧縮CD）を年間1万5千本以上発送しています。視覚障害者が文字情報を得る方法として点字がよく知られていますが、今の視覚障害者で点字が読める人は少ないのが現状です。

音で伝えるこのボランティアは認識度は低いのですが需要は結構あります。仕事量は年々増え、会員全員で頑張つていますが、今回の新人たちは力強い戦力となつてくれると期待しています。

もう一つの成果は、視覚障害者のための音訳というボランティアの存在が多くの人にわかつていただけたことです。

「ご存知ですか？録音ボランティア」という講座名にして募集をしましたが、たくさんの人の目にとまり、申し込みも多く、逗子市民に録音ボランティアの存在がPRできたと思つて良かったです。

交通事故や網膜色素変性症、緑内障、糖尿病などで中途失明になつた方は、点字の習得が特に難しく文字情報が遮断されます。そのため「音訳」というものがあるということを知らないまま何年も過ぎてしまうことがあります。社会全体に録音ボランティアのサービスがもっと認識されれば、中途失明者もすぐに利用できるようになるのではないかと思つています。

そのためにも、今回のような講座開催を継続、企画し、社会全体に「録音ボランティア」をアピールしていきたいと思つています。

学ぶ楽しさ

平成20年度受講 小島 かほるさん

私は平成20年度に「ご存知ですか？録音ボランティア」の講座を受け、「やまばとの会」に入会しました。

今、音訳の世界にはまつており、録音ボランティアを楽しくやつております。音訳は単に文字情報を音に訳すのではなく、読者（視聴障害者）が耳を傾けて下さつてゐることをいつも意識しながら録音するので奥が深いと感じました。

録音する文字情報を選び、読んで録音し、読み違ひがないかモニターし、読者へ郵送する等多くの会員の協力を経て完成することにも感心しました。先輩の方々は楽しそうに熱心に取組んでゐます。

まだ慣れていないので、読者から感謝の声が返つてきた時は、本当に嬉しく励まされました。

デジターを作成するのに、無縁と思つていたパソコンにも取組みました。新しいことを学び、できるようになることは素晴らしいことだと思つています。



平成21年度講座受講、熱心&楽しく！

「日本の近代史をめぐろう」 を終えて ーある講座創りの告白ー

企画 今年度のプロジェクトチーム企画講座（Ⅲ型）のジャンルは「社会科学」だった。公募市民4名と推進の会メンバー4名が様々なテーマ候補をあげ議論を重ね絞り込みに入った。

われわれの年代の誰もがしっかりと教わった記憶のないのが「明治以降の近代史」であった。日清・日露戦争の勝利と傷あとなど、断片的な出来事については近年TVなどでドラマやドキュメンタリー番組で放送されて見ることは多いのだが、「当時日本が置かれた国際事情の流れが理解できていない」「国内の時代背景も分っていない」「為政者の苦悩はどんなだったか」「民生には深刻な影の部分があったはず」など殆ど無知であるな。と一致した。

講座・講師 “歴史の流れ”を中心に解説願えれば有難いとして、内政（関東学院小林照夫）・外交（慶応義塾清水唯一郎）・経済産業（横浜国大邊村英治）・文化（建築関東学院中島高史・服飾関東学院神野由紀）の4つの柱の流れで近隣著名の5人の先生を見つけてお願いした。先生方の講座は充分面白かった。知らないことで目が開けたことも数多くあった。そしてもっと知りたいことがますます増えてきた。

受講者のアンケート意見もいろいろあり「もっと知りたい」「じっくりと聴きたい」が多かった。下述のようななどの場面一つ一つに数時間づつ掛けても聞き終われないだろうから、むしろ当然だ。

内容 政治・制度の根こそぎ大改革であった。明治だけみても **国内・民生の政治** では大政奉還。「5カ条のご誓文」から版籍返還＝再測量・地籍の国有化。廃藩置県＝中央統一。四民平等＝封建制廃止身分職業機会均等化戸籍制度。地租改正＝土地制度改革と租税金納制度。徴兵制＝国家統一軍隊。明治憲法制定＝国体の創成。学校制度の創成＝国民皆学基本教育から大学教育。議会政治創設＝政党制度導入。選挙制度導入＝普通選挙制度まで。

経済・産業・技術分野でも

民法・商法制定＝民間業務の法治化・国際化。
交通・鉄道＝幹線整備一貫国有化。郵便通信＝全国制度整備。通貨・貨幣統一＝両・分・朱の4進法から円・銭・厘10進法国際化。金融＝銀行制度設立。

基幹近代産業導入＝官業・民業で国産化立ち上げ。
資本主義導入＝大資本・財閥

国際・外交分野では

岩倉遣外使節団・女子留学生60名派遣。
お雇い外人＝国費招聘9600人・年/20国から10年間法政制度・金融・教育・産業・技術に互る。
対清国交＝日清戦争。琉球・蝦夷地の内国化。
対露国交＝日露戦争。対朝鮮国交＝日韓併合。
国際融資。英蘭仏独露米列強のアジア侵攻。

文化・思想関係

農民一揆・米騒動・労働運動・自由民権思想・民本主義・社会主義運動・新劇運動。など
！これだけの改革を一挙にやってのけた！
世界が驚嘆する全く新しい国をつくりあげた。

努力 講座創りとしてはもっとうまい採り上げ方があったかもしれぬ。力不足を痛感。

この間の事件相互の繋がりが見易い様にと、この4本柱で独自の年表を創り、販売した。編集は難しかったがとても勉強になった。

感慨 ゼロからの近代国家づくりのヴィジョンを打ち立て、短年月にかくも見事実行した明治維新の推進力は一体何だったのか。長い鎖国の間に外国の事情がよくわかっていたとは思えないが有識者はすでに考えていたのだろうか。

情報が入ればすぐにそれを判断できるだけの見識（土道か朱氏学か）と器量を蓄えていたのか。列強の脅威が国難という認識に統合されていて、拳国一致しかないという共通理解に裏付けされていたからなのか。

困碁でいえば大局・布石を確りと打ち廻した時代だったのか。大正・昭和・戦後の日本は国際社会の渦流に流され続けてきたようだが。先輩熟慮の布石が読めていないと、良い詰めが出来るわけがない。

次へ もう一度このことも含めて学び直す機会を持ちたいと思うことしきり。私たちの「近代史をめぐろう」は まだ終わらない。

今そんな思いで「談話サロン」を始める次第。
多くのご参加を待つや切。

「子孫から見た咸臨丸の歴史」に参加して

ずし楽習塾講座で新たな「ふれあい」が生まれました。咸臨丸船長の“勝海舟”の子孫で講座に参加した竹中さん（逗子市在住）から感想文をいただきました。



竹中 里梨加さん

私は、勝海舟の子孫なのにほとんど勝海舟の事を知らなかったのですが、この企画を知って参加してみようと思いました。実際にお話しを聞いてみると、学校では教えてくれないようなことをたくさん教えてくださったので、行って良かったと思いました。

それに、私は勝海舟の子孫には親戚しか会ったことがなかったのですが、この企画のおかげで、勝海舟の子孫や、一緒に船に乗っていた人の子孫にも会えてとても嬉しかったです。

I 型 市民講師懇談会



I 型プロジェクトでは、講座終了後のアンケートに加え、市民講師懇談会を開催しました。今年度開講した 18 講座のうち 9 講座の講師にお集まりいただき、「受講者募集について」の意見・要望などが活発に出されました。

主な意見・要望は、

- ① 募集期間を長くできないか。10 日間では検討しようと迷っている間に過ぎてしまう。
- ② 検討しようと情報を集めるにしても、「広報ずし」の講座紹介では紙面スペースの関係で説明不足、より詳細な案内がないと申込みまでの決断に踏み切れない。
- ③ 1 回目の講座をクーリングオフの対象とするより、事前説明会か個別講座のポスターを配り、受講することを決断してから参加してもらった方が現実的ではないか。
- ④ 講座の内容も良く、カルチャーセンターの講座より安価というメリットが市民に伝わっていない。個々の講座の PR に先んじてずし楽習塾講座の存在をもっと PR して欲しい。
- ⑥ 「広報ずし」に掲載している期間に交流センター内に写真パネルを展示させてもらってはどうか。文字より写真の情報量は大きい。

会員募集（ずし楽習塾推進の会）

ずし楽習塾推進の会では、このような市民講師の要望に応えられるように、ずし楽習塾講座のポスターやチラシをパソコンで作成支援する人や講座内容を写真撮影する人、講座の開講・運営を支援する人などを常時募集しています。生涯学習ボランティアをやってみませんか。

NPO 法人ずし楽習塾推進の会

I, II 型講座開設への企画・受講者募集・開講支援

Ⅲ型プロジェクトへの参加・講座実務

Ⅳ型講座の企画・開設・運営 地域連携活動・会報の発行

会員募集 随時会員を募集しています

正会員 年会費 1000 円（一口以上任意）

賛助会員 年会費 2000 円（一口以上任意）

連絡先：〒249-0006 逗子市逗子 4-2-1 市民交流センター（内）